

---

# 繋がる先の、君へ。

小松鴉変

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

繋がる先の、君へ。

### 【Nコード】

N7312D

### 【作者名】

小松鴉変

### 【あらすじ】

夢と、アナタと。少女の短い世界観。

夢から醒めた朝は、何処となく物悲しい。夢を見ずに醒めた朝は、激しい消失感を感じる。

夢は、不思議だ。夢は、何処から漂ってくるのだろうか。夢は、何を求めて私に縋るのだろうか。深い意識の底からだろうか。深い欲望の形だろうか。

時には、私を彼に会わせてくれる優しい夢。時には、まだ見ぬ場所へと導きたがる夢。それが、夢。

夢は、見たい時に見ることが出来ない。それがもどかしくも、嬉しい。ふとした瞬間に見せる時の顔の様に、私をいつも飽きさせずに楽しませてくれる。それが、夢。

私に、何も読ませてくれない絶対不侵領域。それが、夢。唯一、私に理解を求めない確かな存在。唯そこにあるだけの、優しい存在。

・・それが私の、夢。

歩きながら、私は考えている。途中で躓くこともなく、なだらかな一本道を歩いている。しばらく歩いて行くと、まるで待つてましたというように、都合よくレンガ造りの低い塀が現れる。辺りを見回すも、他に座れるものは見当たらなかつた為小さく溜息を吐くと、軽くレンガの砂を落としてそこに腰掛ける。すると、また待つてましたというように雨が降る。雨は好きだが、濡れて風邪を引いては馬鹿らしい。そこで私は持っていた赤い傘を差し、また意識を集中させて考え始めた。雨粒が傘に弾かれる音が何とも心地良い。

夢がカクレンボをしている時は、私が鬼をさせられる。

これが、私が必然的に独りになる瞬間。ふとした瞬間に優しさが恋しくなる時間。その時は、息を深く吸い込んで手を伸ばす。高く、

高く手を伸ばす。

手を伸ばす先には、ホントに何も無い。唯々、在るのは色のない彼。だけど、いつでも彼は私の傍に在り、私を生かし続けてくれる。それも、優しさ。夢とは違う、磨かれることのない鋭い優しさ。

彼に手を差し伸べても、手は自然とすり抜ける。それは、至極当然の事なのに。

私はそれが如何し様もなく、悲しい。

夢は、いつからか意味を持つ。

それは出会いの声かもしれない、それは別れの合図かもしれない。唯、誰かの呼ぶ声が聞こえたら。答えを出さなければならぬ。

それが、いつか夢を壊す声だとしても。いつか運命を変える事になることも。

それが、私の存在を消す結果を招くことも。

夢は意味を持ち、理由を持ち、やがては存在を持ち、解き放たれる。悲しい夢も、優しい夢も。皆、何処かで繋がりをもち、いつかはまた交わり、廻る。

今日も誰かが、泣いている。

ああ、悲しいねと手を伸ばすも、届くことのない私の手。

いつか繋がる夢の先で、私の手が届きますように、と。

ぽつぽつと、泣きながら小さく笑う空に手を伸ばし、いつの間にか手に持って開いていた本を閉じた。

本の背表紙を軽く撫で、私はゆっくりと立ち上がる。

今日も誰かが、泣いていた。

ああ、良かったねと手を振って、赤い傘を畳んで歩く。

涙の溜まったその中に、笑う子どもと「アリガトウ」。



(後書き)

最後まで読んで頂きありがとうございました。

未熟な点が手からこぼれおちても直止まらない勢いです。

少しでも、何か感じて頂ければ幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7312d/>

---

繋がる先の、君へ。

2010年11月14日14時12分発行